

# 有田町 社協だより

## ●ボランティアだより●

第71号

平成30年3月

発行／社会福祉法人  
有田町社会福祉協議会

●本所  
〒844-0027  
有田町南原甲664番地4  
TEL0955-41-1315

●西有田支所  
〒849-4153  
有田町立部乙2462番地2  
TEL0955-46-4733

印刷／(有)大宅印刷

ドイツの文化にふれたり、  
イースターエッグ（復活祭の飾り卵）  
作りにみんなの笑顔がはじけました。



親子で有田のまちをもっともっと知ろう！第5弾は、有田町の姉妹都市ドイツ・マイセン市の文化にふれてみようを開催。

国際交流員マニュエル・ペーター・サドフスキー氏を招き、ドイツの気候や暮らし、食べ物などのことを教えていただきました。その後、イースターエッグをみんなで作りました。この事業は来年度も赤い羽根共同募金配分事業として続けます。お楽しみに！！



社協福祉のつどい盛大に開催しました	..... P 2・3
地域福祉活動事業の実施団体を募集します	..... P 4
ご芳志ありがとうございます	..... P 5
包括的支援ネットワーク事業 講演会開催・町民災害ボランティアセンター 訓練を実施	... P 6
ボランティアセンターからのお知らせ・チャイルドシート貸出について	..... P 6
福祉体験教室（有田中部小・有田小・大山小）	..... P 7
社協から今後の催しものをお知らせします・困った時はお互い様で助け合おう！	..... P 8
社協会費にご協力ありがとうございました	..... P 8



1月28日(日) 有田町福祉保健センターにて

## 社協福祉のつどい

盛大に開催しました

テーマ「だれもが安心して暮らせるまち有田！」

1月28日(日)、有田町福祉保健センターにおいて、平成29年度の社協福祉のつどいを開催しました。

地域における生活課題が多種多様化している現在、公的福祉施策に加え、地域住民同士の助け合いがますます重要になってきます。

このような中、民間の福祉サービスや地域住民の相互扶助を醸成し、課題やニーズに応じた適切で迅速な福祉サービスが求められています。

有田町社会福祉協議会は、有田町と協働し高齢社会を住みよいものとするため、生活支援体制整備事業に取り組んでいます。

今後も住民同士の助け合い活動を推進し、地域力を高め、おたがいさま、おかげさまの気持ちで支えあう有田をつくり上げることを再確認するため、社協福祉のつどいを開催しました。

### 《式典の部》

有田町社協松尾利興副会長の開会のことばを皮切りに、上瀧幸二社協会長が主催者代表の挨拶をし、福祉のつどいの開幕となりました。



挨拶する上瀧会長

その後、5名の来賓者(山口隆敏町長、大串博志衆議院議員、原田寿雄県議会議員、松尾文則町議会議員、野中博人県社協事務局次長)より、社協に対する激励のお言葉をいただきました。

続いて、社協表彰規程による社会福祉功労者の表彰を行いました。

受賞者は次のとおりです。

### 【社協役員等の部】

蒲原重明 様  
〔社協評議員在職11年〕  
舘林靖代 様  
〔社協理事評議員在職11年〕



賞状を受取る蒲原氏

### 【社会福祉施設職員の部】

青木洋子 様〔社会福祉法人慈光会介護職員16年余在職〕  
森 涼子 様〔社会福祉法人慈光会看護職員16年在職〕  
川尻和博 様〔社会福祉法人慈光会生活支援員16年余在職〕

### 【在宅介護者の部】

今泉洋子 様〔(長寿の義母様102歳・昨年10月ご逝去)を6年の長きにわたり在宅にて介護〕  
前田和富 様〔実母様を14年間の長きにわたり在宅にて介護中〕

### 【社会福祉功労感謝状の部】

百田節子 様  
〔福祉サービス利用援助事業の生活支援員を9年間従事〕  
立林幸一 様  
〔福祉サービス利用援助事業の生活支援員を8年6ヶ月間従事〕



感謝状を受取る百田氏

### 【社協福祉のつどいポスター作者のご紹介】

佐賀県立有田工業高等学校デザイン科2年  
北野詩織 様

### 【講演】

式典の部を閉じ、ステージ後半の催しとして、西九州大学非常勤講師・スクールカウンセラーの吉村春生氏による講演会を行いました。

『心がかぜをひくとき ～“安心感と自立”～』という演題で、持ち前の個性的なヘアスタイルと軽快な口調、心に響くユーモアで、観客を笑いの渦と納得のうなづきと感動を与えてくださいました。



熱弁をふるう吉村先生

# ボランティアバザーや福祉の店は大いに賑わいました



食のバザー会場では、  
おいしい料理で満腹！



カフェコーナーでは、  
楽しい会話がはずみました



物品バザーも  
掘り出し物がたくさん!!



今年も有田焼のマスコット「ありたん」、  
共同募金の愛ちゃん・希望くんが  
駆けつけてくれました。



野菜もおかげさまで  
完売しました。



老人クラブや身障会の皆さんによる  
力強い餅つきが行なわれ  
つどいに活気をもたらしました。

# 地域福祉活動事業の実施団体を募集します。

【平成30年度 地域福祉活動事業助成制度があります】

一定の基準を満たしている団体には、地域福祉活動資金を助成する制度があります。以下に助成制度の概要を掲載しますので、助成金を希望される団体は、期日までに申請して下さい。

## 助成金の財源

赤い羽根共同募金の配分金や香典返し等の寄付金が財源です。

## 助成対象とする事業

- 1 地域福祉の先駆的・開拓的事業、地域の公益性に貢献すると認められる事業
- 2 地域住民の福祉向上を目的とした福祉サービス、教育・研修を含めたイベントの開催、機関紙の発行等に関する事業
- 3 高齢者や障害者が、スポーツや集い、学びを通じて社会参加を促進できる事業
- 4 子育て支援や青少年の非行防止・健全育成等の促進を図る事業
- 5 交通安全、各種募金や奉仕活動、福祉施設の訪問や清掃活動、学校のボランティア教育等、地域福祉活動思想の普及や教育・実践に関する事業
- 6 前各号の事業活動に必要な備品等の整備
- 7 その他地域外の活動でも、有田町民がその活動の恩恵を受けられる事業

## 助成の基準

- 1 一事業の80%以内(学校ボランティアを除く。)
- 2 他の機関から補助等がある場合は、その額を控除した残額を対象事業費とする。
- 3 その団体の運営費や会費、構成員の報酬等を控除した残額を対象事業費とする。
- 4 助成金の総額は、財源として共同募金等から配分される額等を限度とし、応募が多いときは、抽選又は減額する。

## 対象としない事業

- 1 その団体の財政状態と他からの補助金等で、この助成が必要と認められない事業
- 2 営利目的の事業や報酬を得られるとみなされる事業(会社、NPO法人等)
- 3 社会福祉の活動であっても運営費への補てんや構成員の互助共済が主な事業とみなされる事業

## 助成金説明会

今年度は説明会は開かず、社協窓口での説明を行いますので、助成金希望の団体代表者の方は、有田町社協へおいでください。

## 助成申請

4月27日(金)までに、助成金申請書をご提出ください。(様式は社協にあります。または有田町社協ホームページからダウンロードできます。)

## 認定審査

認定審査会を開き、その結果を(助成額等)応募団体に通知します。

## 助成金交付

認定を受けた団体等には、6月下旬に助成金を交付します。

お問合せ先

有田町社会福祉協議会  
☎ 0955-41-1315

## 助成金の使い方紹介

地域福祉活動事業助成金は、赤い羽根共同募金の配分金を主な財源としています。

今年度は、申請に基づき、認定審査会を経て18団体に1,029,000円の助成金を交付しました。

助成金は、どんなことに使われているのか、助成金の使途概要を紹介します。

町内の小中学校・高校では学校周辺の花いっぱい運動やクリーン活動に取り組んでいます。

また、地域福祉団体やボランティア団体では会員全体の研修会やスポーツ大会、町民対象の福祉や社会教育関係のイベント等を開催しています。

その他、ボランティア活動に必要な備品、ユニフォーム、器材の購入等さまざまな用途に活用されています。

傾聴ボランティア「ひびきの会」では、町内の一人暮らし高齢者や障がいのある方等の自宅を訪問し、その方の悩みや思いを受け止めるため、共感を持って話しを聴く活動を行なっています。

助成金の申請をお待ちしています。



ご芳志ありがとうございます。

【寄付金の公表について】

有田町社会福祉協議会では、町民の皆様からいただいた寄付金(香典返し等)については、寄付をいただく際に、寄付申込書にて寄付なされる方の意思をお伺いしております。

有田町社協としては、寄付者の意向を尊重し、寄付申込書にしたがって、下記のような公表をさせていただきます。

- ① 寄付者名・地区名、物故者名、金額全て載せてもいい。
  - ② 寄付者名・地区名、物故者名までは載せて、金額は載せなくてよい。
  - ③ 全て載せなくてもよい。
- 町民の皆様のご理解を賜りますようお願いいたします。



皆様からいただきました貴重な浄財は社会福祉事業に幅広く使わせていただいております。

(寄付者にその意向をお尋ねした結果、一部記載がないところがあります。)

● 香典返し

【自 H30. 1.1 ~ 至 H30. 2.28】

寄付者名	地区	物故者名	金額
神田 祐二様	戸杓	悦子様	30,000円
金武 栄様	南原	アキノ様	20,000円
勝本美智子様	南原	一郎様	30,000円
中島 信行様	立部	フチ子様	100,000円
丸田 笑子様	外尾町	俊治様	50,000円
岩永佳代子様	下内野	賢幸様	30,000円
南 嘉子様	南原	勝政様	50,000円
眞崎 廣子様	福岡市	馬場吟子様	50,000円
丸田 光洋様	泉山	ノエ様	30,000円
久保田 進様	仏ノ原	春子様	50,000円
吉永 達雄様	山本	重貞様	30,000円
東島 恭博様	赤坂	満好様	30,000円
淵上三起子様	南原	悦士様	30,000円
徳川美奈子様	赤坂	道郎様	50,000円
大宅藤三郎様	泉山	山下綾子様	50,000円
川原 知則様	二ノ瀬	トシ子様	30,000円
平川 和則様	戸杓	カズエ様	50,000円

寄付者名	地区	物故者名	金額
池田 紀子様	戸杓	文典様	50,000円
丸山 生恵様	南原	正義様	30,000円
徳永 博敏様	楠木原	義博様	30,000円
梅崎 恭恵様	下山谷	一秋様	30,000円
荒木 芳美様	大阪府	ミハル様	
小川 喜子様	黒牟田	丸田房枝様	
百武 和子様	原明	豊様	
中村 晋二様	幸平	一美様	
丸田 喬英様	上幸平	祐司様	
立部 佑貴様	立部	イワ子様	
平山 健次様	中樽	裕實様	
山口エツ子様	山谷切口	勝次様	
山口 富枝様	南山	富男様	
關 章博様	黒川	益幸様	
中島 滋子様	大木宿	美津子様	
嵩 夏美様	大木宿	チエ子様	

寄付者のご意向により  
金額は載せておりません

● 一般寄付

【自 H30. 1.1 ~ 至 H30. 3. 7】

S I ソロプチミスト有田 様	5,000 円	社会福祉事業資金 (福祉のつどい)
食生活改善推進協議会 三木会支部 様	1,000 円	
ピースワーク 様	1,000 円	
話輪の食楽クラブ 様	1,000 円	
songのぞみ 様	1,500 円	
配食ボランティア 道草の会 様	2,000 円	
有田町消費者グループ協議会 様	1,000 円	
食生活改善推進協議会 さわやか支部 様		

● 物品寄付

【自 H30. 1.1 ~ 至 H30. 2.28】

眞崎 廣子様 (福岡市)	シルバーカー
--------------	--------

## 包括的支援ネットワーク事業

### 講演会開催

NPO法人スチューデント・サポート・フェイスの谷口仁志氏を講師に招き、1月11日に有田町福祉保健センターにおいて、今年度2回目の包括的支援ネットワーク事業の講演会を開きました。

私たちの暮らす社会では、高齢者や障がい者、児童、生活困窮者、引きこもり者等、個人では解決の難しい事案が数多く存在し、また複雑に絡まっているケースもあります。この有田町においても例外ではありません。

そこで、そのような生活上のあらゆる問題や課題に対し、早期発見、対応できるように関係機関、団体がネットワークを構築し共同して取り組むことを目的とした講演会でした。

高齢者、障がい者の事業所、老人クラブ、NPO団体、保育園や幼稚園、学校等の児童関係者、ボランティア、警察他、たくさんの方に参加いただきました。

今後は組織化を図り、スムーズな支援が展開できるような体制づくりを目指したいと思います。



講演する谷口さん

## 町民災害ボランティアセンター

### 訓練を実施

前日からの大雨で3月3日(土)早朝、有田町内に土砂災害が発生したとの想定で、有田町災害対策本部からの要請を受け、有田町社会福祉協議会職員による災害ボランティアセンターの立ち上げと災害ボランティアの受付、被災集落の支援訓練を行いました。

この日は、社協職員による訓練で、社協会館に集合し、災害支援に駆けつけたボランティアの活動拠点となるテントを社協会館前に立て、ボランティア受付を行い、ボランティアの活動できるオリエンテーションと支援要望とのマッチング、グループ分けを行いました。

事前に災害対策本部から情報を得ていた被災集落をマップ等で確認し、リーダーの先導で災害現場へ出動しました。

ボランティアセンターに帰還後、現場の報告、今後の支援要領等を話し合いました。その後、加熱調理した災害食を、参加者全員に配食しました。



マッチングの説明をする社協職員

## ボランティアセンターからの お知らせ

平成30年度のボランティア団体、個人の登録受付を行います。

安心してボランティア活動を行うため、ボランティア活動保険にご加入ください。

ボランティアセンター登録2年目以降は、ボランティア活動保険の保険料(一人350円)の内150円を社協より助成します。ただし、6月29日までにボランティア登録を済ませた団体・個人が対象です。

過去何度となくボランティア活動中の事故が発生しております。是非保険加入をお願いします。

登録用紙や保険加入申込書は有田町社会福祉協議会にあります。

問い合わせ: ☎41-1315

## チャイルドシート 貸出しについて

有田町社協では、子育て中の保護者の方にチャイルドシートやジュニアシートの貸し出しを行っています。里帰りをして実家にチャイルドシートがない、購入する予定だが今すぐ必要等のとき、社協から1週間を限度に、また出産のための里帰りなど一時帰省の場合は1ヶ月単位で最長3ヶ月間、借用ができます。

ゴールデンウィーク期間中の借用は、数に限りがありますので、早めに社協窓口にお申し込みをお願いします。

申込み時は、窓口に来られる方の身分証明となる書類(運転免許証、医療保険証など)と印鑑をお持ちください。



福祉体験教室

●有田中部小 2月6日  
●有田小学校 2月16日



2月6日、有田中部小学校3年生(2クラス72名)と、2月16日、有田小学校3年生(1クラス14名)が、総合学習の一環として、福祉体験を行いました。社協職員より高齢者や障がい者について

ての話をさせていただいた後、「車いす」「アイマスク・白杖」「高齢者疑似体験」を体験しました。歩くことが困難だったり、目が見えなかったり、高齢になって腰が曲がったり、身体が動かしにくかったりと、実際に体験してみても、そういった方々に、どのように接したらよいか、みんなで考えるきっかけとなりました。



福祉体験教室

障がいを持った方のお話と福祉体験を行いました

2/28

大山小学校3年生(1クラス37名)は、総合的学習の中で、視力に障害をお持ちの川久保真知子さん(大木宿)から目が不自由な方に関するお話しと有田町社協の支援によるアイマスク・高齢者疑似・車いす介助の体験をしました。

川久保さんからは、目が見えなくても自分の努力はもちろん、福祉用具を使ったり、困ったときは周りの方の支援を上手に利用して、日常生活を送っているとの話しをしていただきました。

また、子供たち一人ひとりの名前を点字で記入したシートをプレゼントされ、子供たちはシートを指でなぞって点字の感触を確かめていました。

次に「目が見えない」ということはどんな感じなのか。二人組で実際アイマスクを使い、片方が目隠しをし、白杖を持ち、もう片方が付き添い役での歩行体験をしました。

アイマスクと白杖を使っての歩行体験



その後、高齢者疑似体験グループと車いす体験グループの2班に分かれ、高齢者になったときに間接が動きにくくなったり、力が入らなくなったり、腰が曲がったりしたときにどんなにきついかな身をもって体感しました。また、段差や上り下りの坂道を車いすで移動の手伝いをする場合、どんなことに気を付ければ良いかなどを実際体験しながら学習しました。

この福祉体験で子供たちからは、「目が見えない人は、どんな作業が困りますか。」「災害のときは助ける方法はありませんか。」「など子ども目線で、素朴な質問が出され、講師の川久保さんからは、「料理は動と道具をうまく使うことでできています。」「災害のときは、地区の方



分かりやすく説明する川久保さん

の助け合い組織があるようです。助けを願っていたい。」と質問に答えておられました。「今は障がい者にやさしい社会で、障がいはあっても不幸ではありません。」という言葉が印象的でした。



社協から今後の催しものをお知らせします



行事名	期日／場所	内容
認知症サポート事業 講演会	3月24日(土) 13:30~15:00 有田町福祉保健センター2F	認知症について理解を深める 講師:塚本吉弘氏 (いなほグループ みやび会) 参加料:無料
心配ごと相談	4月17日(火) 10:00~12:00 有田町社協会館相談室	民生委員児童委員(2名)による 福祉総合相談受付 相談無料、秘密厳守
介護相談	5月15日(火) 10:00~12:00 有田町社協会館相談室	社協在宅介護支援センター 介護支援専門員 相談無料、秘密厳守
法律相談	4月17日(火)、5月15日(火) 13:00~16:00 有田町社協会館相談室	弁護士により、財産相続、金銭貸借、 離婚問題、多重債務など法律に関する 相談に応じます。(予約が必要です。) 相談無料、秘密厳守
有田町ボランティア 連絡協議会総会	5月12日(土) 8:00~ 清 掃 9:30~10:30~ 総 会 10:30~11:30~ 研 修	ボランティア連絡協議会の事業 計画、予算等の審議、その後会員 研修会を予定

困った時はお互い様で助け合おう！

地域における生活課題、とりわけ核家族化に伴う支援高齢者や障害を持つておられる方などが、住みなれた有田で安心して暮らせるためには、行政はもとより社会福祉協議会による生活支援、地区住民同士の助け合いが必要になってきます。

有田町社協では、地区住民の助け合い活動を形あるもの、継続的安定的にしていくため、生活支援体制整備事業に取り組んでいます。

昨年8月に行った生活支援アンケートで高齢者の方から「コミュニティバスの利用の仕方が難しい。」との声が聴かれたので、協議体メンバーと泉山の老人クラブの方々を中心に試乗会を行いました。当日は役場まちづくり課からも説明やガイドで参加していただき、依頼すると作成してもらえる「コミュニティバス個人時刻票」の紹介もありました。



普段、車で移動するとなかなかバス停に気付かなかつたり、バス停の名前と場所が一致せず、行きたいところの最寄のバス停が分からなかつたりします。しかし上手に言えば有効な移動手段です。「複雑でわからない、便数が少なく不便」で使わない、ではなく「一度乗ってみると今まで気付かなかつた景色や出会いがあるかもしれません。」

平成29年度社協会費納入ありがとうございました

(H30年1月1日〜現在)

◆ 賛助会員 山代ガス(株)西有田工場様

